# 携帯品として持ち込まれる畜産物に対する検疫対応の強化

▶ 携帯品として持ち込まれた畜産物からASF、高病原性 鳥インフルエンザ等のウイルスを分離





#### モニタリング検査の結果

検査対象:中国、韓国、台湾、フィリピン等からの牛、豚、鶏の筋肉、臓器等 検査期間:2015年6日~2019年10日(総検査検体数1300件(\*))

候								
搭載国	畜 種	分離ウイルス(株数)(赤字は高病原性)	調査時期					
中国	あひる	鳥インフルエンザウイルスH9N2(2株)	2015年度					
		鳥インフルエンザウイルスH1N2(1株)						
		鳥インフルエンザウイルスH5N6(1株)						
	鶏	鳥インフルエンザウイルスH9N2(1株)						
		鳥インフルエンザウイルスH5N1(1株)						
		鳥インフルエンザウイルスH5N6(1株)						
台湾		鳥インフルエンザウイルスH9N2(1株)						
フィリヒ゜ン		ニューカッスル病ウイルス(1株)						
中国	あひる	鳥インフルエンザウイルスH7N9(1株)	2016年度					
ペートナム	鶏	2010-70						
中国		鳥インフルエンザウイルスH9N2(1株)						
ヘートナム		鳥インフルエンザウイルスH9N2(2株)						
中国	あひる	鳥インフルエンザウイルスH7N9(2株)	2017年度					
台湾		鳥インフルエンザウイルスH5N1(1株)	2017 172					
	鶏	鳥インフルエンザウイルスH6N1(1株)						
中国	あひる	鳥インフルエンザウイルスH7N3(1株)	2018年度					
		鳥インフルエンザウイルスH5N6(1株)	2010千皮					
ベトナム	而白	鳥インフルエンザウイルスH5N2(1株)						
	鶏	鳥インフルエンザウイルスH9N2(1株)						
中国	豚	ASFウイルス(2株)						

外国人技能研修生・留学生の受け入れ団体に事前 対応型の周知活動を強化



#### ★注目情報★

白家製ソーセージ

(青島から中部空港)

- 中国・ベトナムから持ち込まれた携帯品83件から、ASFウイルスの遺伝子を検出 (2019年11月29日現在)
- うち、2019年1月に中国から持ち込まれたソーセージ2件 からASFウイルスを分離



ソーヤージ

(瀋陽から中部空港)

ソーヤージ

(上海から中部空港)

30

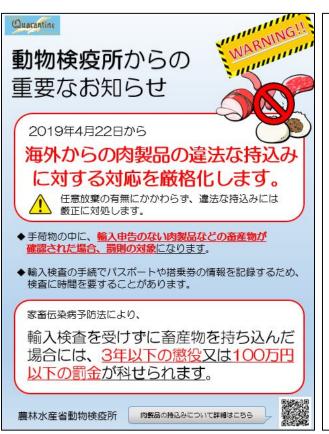
豚肉調整品

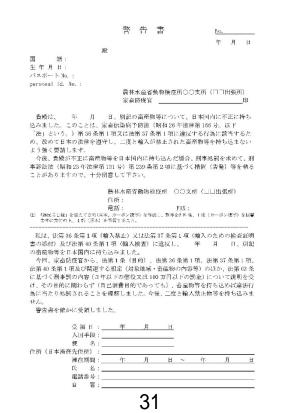
(ハノイから成田空港)

## 畜産物の違法な持込みに対する対応の厳格化

### 2019年4月22日から、畜産物の違法な持込みに対する対応を厳格化

- ▶ 違反者に警告書を発出するとともに、違反事例をデータベース化
- ▶ 自己消費用やお土産用であっても、悪質性が高い場合には警察に通報又は告発





#### 【警告書の内容】

- ▶ 違法行為に該当し、二度と輸入禁止物を持ち込まないよう要請。今後、不正に持ち込んだ場合は告発等の措置を執ることがある旨警告。
- ▶ 違法行為に該当することを 理解し、今後、二度と輸入 禁止物等を持ち込まない 旨を誓約。

### 家畜伝染病の発生状況

- 口蹄疫は、2010年に宮崎県で発生したが、2011年2月にOIEの定めるワクチン非接種清浄国に復帰。
- CSFは、2018年9月に岐阜県で26年ぶりに発生して以降、50例の発生を確認(12月4日現在)。
- 高病原性鳥インフルエンザは、直近では、2018年1月に香川県で発生したが、2018年4月15日付けでOIEの定め る高病原性鳥インフルエンザの清浄国に復帰。
- 牛の結核病やブルセラ病は近年発生が見られない一方で、ヨーネ病は依然として全国的に発生。
- 牛海綿状脳症(BSE)は、2001年9月以降、36例の発生が確認されたが、2013年5月のOIE総会で「無視できる BSEリスクーの国に認定。

#### 【主要な家畜伝染病の発生状況<sup>注1</sup>の推移】

								(平)	. 广致/	注2_			
年 (西暦)	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
口蹄疫		0	0	0	292	0	0	0	0	0	0	0	0
ブルセラ病(牛)		1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
結核病(牛)		0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
ヨーネ病(牛)		441	278	313	235	331	211	293	326	327	315	374	321
牛海綿状脳症(BSE)		3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スクレイピー(羊)		0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0
馬伝染性貧血		0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
CSF		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
高病原性鳥インフルエンザ		4	0	0	1	23	0	0	4	2	7	5	1
低病原性鳥インフルエンザ		0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1:家畜伝染病予防法第13条第1項の規定による患畜届出戸数(ただし、口蹄疫、CSF32高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザは疑似患畜を含む)。 注2:データは2018年12月までの集計結果。

(畄位: 百数)